

昭和四十三年十二月招集

第四回市議定会定例会会議録(第一号)



館山市議会第四回定例会会議録(第一号)

昭和四十三年十二月招集

十二月十八日(水曜日)

一現在議員三十名でその氏名次うとおり

一番	吉田勇治郎	二番	石井輝久
三番	嶋田石蔵	四番	伊賀多朗
五番	藤田益治	六番	磯辺博
七番	白熊盛太郎	八番	黒川正
九番	三幣勇	一〇番	西村真次
一一番	菊井敏博	一二番	小柴孝
一三番	山田教子	一四番	遠山ヨネ子
一五番	石井正	一六番	五十嵐昇
一七番	江田徳太郎	一八番	安西益男
一九番	島野茂樹郎	二〇番	中村省吾

二一番 関 武夫 二二番 小澤 恵太郎

二三番 飯田 義男 二四番 田中 祿郎

二五番 田村 源治郎 二六番 秋山 六三郎

二七番 安次 徳順 二八番 望月 照正

二九番 鈴木 市蔵 三〇番 山口 康

一 議事日程(第一号)

第一議案第八十号 昭和四十三年十二月に支給する期末手当の特例に關

する条例の制定について

(認定第一号 昭和四十三年年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定

について

認定第二号 昭和四十三年年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳

出決算の認定について

認定第三号 昭和四十三年年度館山市簡易水道事業特別会計歳入

歳出決算の認定について



認定第四号

昭和四十二年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号

昭和四十二年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号

昭和四十二年度館山市館山ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号

昭和四十二年度館山市南部簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

報告第五号

館山市水道の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例に関する専決処分報告について

議案第五号

館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第六号

老人家庭奉仕員派遣事業に関する条例の制定

について

議案第二十号

館山市水道の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十一号

館山市教育長、諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十二号

市道路線の變更について

議案第二十三号

字、区域及び名称變更について

議案第二十四号

昭和四十三年度館山市一般会計補正予算(第四号)

議案第二十五号

昭和四十三年度館山市国民健康保険特別会計補正予算

算(第二号)

議案第二十六号

昭和四十三年度館山市簡易水道事業特別会計補正

予算(第一号)

議案第二十七号

昭和四十三年度館山市休養施設特別会計補正予算(第三号)

議案第二十八号

昭和四十三年度館山市新木ステル特別会計補正予算(第三号)

一 法第百三十一條による出席説明員

市長	本間 讓
助役	畠山 伝
収入役	高木 哲三
秘書課長	小倉 澄男
人事課長	小沢 正治
企画課長	谷貝 茂生
庶務課長	山口 実
財政課長	長谷川 広治
市民課長	羽山 房雄
調査課長	石渡 東
収納課長	横溝 功
農林水産課長	伊藤 幸太郎
商工観光課長	山田 俊康

土木課長

飯田治男

建築課長

池田春雄

衛生施設課長

大嶋重義

保健衛生課長

綱島憲治

福祉事務所長

山口一

教育課長

高木正

教養庶務課長

干場伊右門

兼學校教育課長  
兼体育課長

遠藤一郎

兼社会教育課長

源間利一

消防課長

星野清之助

消防本部次長

岩田実

選挙管理委員会  
書記長

鈴木力

監査委員事務局長

石原春

農業委員会事務局長

畠山市治郎

診療所事務長

野中圭太郎

布衣文館長

太田博雄

一本議會事務局長・局長補佐・書記及び取員

事務局長

高梨清一

事務局長補佐

高尾豊

書記

兵藤恭一

同

香藤武男

同

庄司徹

同

錦織睦子

取員

島田守

一出席議員 二十六名

一欠席議員 四名

午前十時三分

開議

副議長（西村真次君）本日出席議員数 二十四名

ニより第四回市議会定例会を開会いたします。

本定例会の議案審査のため地方自治法第百三十一条の規定による出席要求に対し、本間市長、島山助役、高木収入役、小倉課長、谷見課長、山口課長、長谷川課長、小沢課長、山田課長、池田課長、飯田課長、伊藤課長、羽山課長、石渡課長、横溝課長、網島課長、大嶋課長、太田館長、鈴木書記長、石原局長、島山局長、野中事務長、山口福祉事務所長補佐

星野消防長 岩田次長

高木教育長 干場課長 遠藤課長 源間課長

佐々木監査委員 以上が出席する旨の報告があり

ました。

議案を配付いたします。

議案の配付漏れはございませんか。——配付漏れなしと認め  
ます。

会議録署名員の決定を行ないます。

本定例会の会議録署名員に一三番議員、山田教子君  
一八番議員、安西益男君以上両名を指名いたします。

これに御異議ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(西村真次君)御異議なしと認めます。よって決定  
いたしました。

会期、決定を行ないます。

本定例会の会期につき、議会議事協議会、意見見は本  
十二月十八日より十二月二十三日までの六日間ということ  
であります。

おはかりいたします。

会期を六日間と定めますことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(西村真次君)御異議なしと認めます。よって会期は十二月十八日より十二月二十三日まで六日間と決定いたしました。

暫時休憩いたします。

午前十時五分

休憩

午前十時五十分

再開

副議長(西村真次君)休憩前に引き続き会議を開きます。本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。二、三、本定例会の案件につき、市長の説明を求めます。



本間市長

(市長 登壇)

市長(本間 謙 君)一言ごあいさつ申し上げます。

本日ここに十二月定例市議会を招集いたしましたところ、議員各位には歳末うあわただしい中を御参集いただき、まことに恐縮に存する次第でございます。

さて本日上程いたします付議事件でございますが、認定関係としまして昭和四十二年度館山市一般会計ほか六特別会計に及ぶ歳入歳出決算であります。これは地方自治法で規定するところにより、議会が認定に付するものであります。

次に報告関係であります。従前設置されておりました波左間及び加賀石簡易水道、鉦切簡易水道を一本化して統合し、規模を適正化及び管理の適正を期

するために新たにこゝを西岬簡易水道と名称を変更  
 することについて水道法の規定により認可の申請に多  
 要する関係でこゝを法に規定により専決処分の上  
 報告して承認を求めようとするものであります。

次に条例関係といたしまして、まず老人家庭奉仕員  
 派遣事業に関する条例を新たに老人福祉法の本旨に  
 基づいて市が実施しようとするもので、こゝは身体  
 又は精神上に障害があつて日常生活を営むのに支障  
 がある老人家庭に対し無料で老人家庭奉仕員を派遣  
 して家事・介護、その他相談等を行なう制度を確  
 立いたしまして、日当らぬ老人福祉に幾分でも老人  
 健康と豊かな生活を営んでいただくために条例を制定  
 し、翌年四月から施行する運びとなっております。  
 次に市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正

であります。こゝは本年十月十五日付政令第三百七号を  
もつて市営住宅の入居者資格の収入算定方法及び  
基準について扶養控除額が一人従前二千円を三千円に  
引き上げ、住宅入居者の資格の緩和をはからうとするも  
ので、本年十二月一日から施行されるほか、こゝから入居者の  
割増し賃料の限度額についても、明年四月から施行  
されるはこゝと相なるわけであります。

次に館山市水道の設置及び管理に関する条例の一部  
改正については事業の竣工により、完全給水を行なう  
はこゝとなりました。南部簡易水道について、その施設  
の所在給水区域を公う施設として条例の中に加え、  
一部用語の整備をはかるため、条例の改正を行なう  
ものであります。

その他一般職員と給与の均衡上、教育長に対す

る給与額の改訂。本年十二月に支給する一般職員等の期末手当の支給に関する特例。字の区域及び名称の変更。並びに従来大蔵省所管であった航空隊地先道路について貸し付けが正式に決定したことにすり。市道路線の編入にかかわる変更等がおもむき議案であります。

次に一般会計ほか四特別会計に及ぶ補正予算であります。まず一般会計においては、今回追加額二千八百六十万余円の補正をお願いするわけであります。そのおもむきもろとては、まず民生関係と一まいて生活保護世帯に対しての歳末見舞、身障者補装具交付扶助などで二十六万三千余。国民年金関係事務器具購入費二十万。保育園産休職員等臨時職員賃金など十五万七千余円などがあります。

衛生関係としましては、ガン集団検診等に対します。検診委託料  
百二十六万円。

農林水産関係としましては、献穀米、ゆかりの地に記念碑の  
建立、十万円、神戸布沼におきます、平砂浦、花卉集団栽  
培地造成事業、五百七十八万、農地関係としましては、山本  
農道改良工事、六百万円、平久里、リ河口に堰止、用水障  
害事業、二百万円などがあります。

また水産振興関係としまして、館山船形漁港改善事業  
経営近代化施設補助、三百五十七万五千円。

土木関係としましては、道路維持補修用資材購入、三百  
万円。

教育費関係としましては、小中、宿日直、代行員賃金  
六十八万六千余円、神戸公民館、サイレン購入、十万円な  
どがあります。

なお、従来体育施設費に予算計上されております市営プール脱衣所、管理事務所、災害復旧費七百五十万円は、地方債の詮議により更正して災害復旧費として課目より計上がえをお願いしようというつもりであります。

その他人件費関係として給料ほか五百六十八万三千円、この追加額二千八百六十九万四千円、この財源として国県支出金、千八百八十九万四千円、地方債二百七十万円、その他四十万九千円、他を一般財源をもって充当しようというつもりであります。

なお、この補正予算に含ませて北条小学校用地購入について四十四年度、三千七百五十万円、四十五年度、四千七百十九万八千円、二カ年を限度として債務負担行為、先ほど一部御説明申し上げました差留による

市営プール脱衣所、管理事務所、災害復旧事業と一まて二百七十万円の地方債の追加などがあります。

その他特別会計と一まて国保会計、二十二万六千円、館山ユースホステル五十八万九千円、追加、簡易水道、及び休養施設において歳入歳出予算中、款項区分ごとう金額の補正をお願いするものがあります。

以上、簡単な御説明につきるわけでございますが、詳細につきまては、各関係課長等をお席さておりますが、慎重な御審議をたまわりますよう、重ねてお願い申し上げます。上げる次第でございます。以上。（拍手）

副議長（西村真次君）市長の説明を終わります。

こゝより議事に入ります。

日程第一、議案第八十号。

（書記朗読）

議案第八十号

昭和四十三年十二月に支給する期末手当の

特例に関する条例の制定について

人事課長（小沢正治君）議案第八十号につきまして御説明  
申し上げます。

この条例は本年十二月期に支給いたします期末手  
当の額に関する特例でございます。市長、助役、収入  
役及び議会、議長、副議長及び議員、それから  
一般職員に對しまして支給する期末手当の率の  
特例でございます。基本は、条例におきまして一、六、百分  
の二百二十ということになります。

一般職員、その部分と議員に對しましては、一般職の期  
末手当と勤勉手当の率を加えまして二百五十とい  
うことが基本、条例にうたっております。一、六、百分に  
加算いたします。率をここに規定することによりまして、終  
了願



といたしまして、百分の二百八十を支給することにしたいたいという意味の特例でございます。

逐条的に二条三条四条と分かれておりますのは、その準拠します条例が異なりますので、その關係をうたつたものでございまして、結果的には期末手当を支給することとなる職員に対して、百分の二百八十を支給することにしたいたいという意味のものでございまして。

条例の施行が十二月一日からということになりますのは、この期末手当を支給する職員が在職基準日が十二月一日になっておりますので、そのように附則でうたつたわけでございます。よろしくお願いいたします。

副議長（西村真次君）本案に対する御質疑を求めます。  
二五番（田村源治郎君）ちょっと質問いたしたいと思ひますが、さう市長は協議会において、館山市の職員に給与は

千葉県の各市で最低である。こういうことで特例で百分の三十五です。館山市は前々から市長の協議会で聞いたところによりますと一番最低の給与期末手当は最低で出ている。なぜ人並みぐらいの給与期末手当の特例は出せないのか。その辺を一つ説明していただきたいそれからもう一点は議員の方でござりますが、議員は議員で二・五なら二・五に切つて職員だけにしてもうたうかどうかという観点を一つお伺いいたしたい。二点をお伺いいたしたい。

市長（本間 譲君）田村議員さん、大へん結構なことでございしますが、私どもとしても職員にできるだけ賞与をあげたいわけでございすけれども、いろいろやはり財政にもありますし、またいろいろ市内の商工業者との関係も考慮しなければいけませんし、いたばさみとの関係にあり

ます。一カー、今度は私としてはできるだけやった。こう思っておるんですが、大体二十五割が、官公庁の例ですわ。それからいろいろ出てゐるらしいけれども、それが基本線です。それから二十八割になったんですから、干葉果下の市では、もっとも低かったけれども上った。去年からもう上つていますし、だんだん財政事情によつてなるべく多く出したいと思ひますけれども、そうもいきません。やはり市民から税金をいただいておりますし、市民のことも考えておりますし。一かし私としては職員にできるだけあげたい。

私としては現段階におきましては、館山市の経済事情からしては相当ふんばつた。こういうことを考えておりまして、皆さま方に御提案したわけでございます。

それから特別職関係につきましてはやはりこれは社会情勢とやはり議員の職務というものが大へんですし、やはり

世間並みの議員にもおあがりなけねばいけないと思ひますが、決してさそよりは、さけいゝていません。議員に対しては、三三という事でござります。

・二五番（田村稔治郎君）今市長さんが言われまゝたけねども議員報酬審議会に対してそれを掛けずに市長独断で百分り三十出して議員にくれる。議員に折衝してみたかどうか。議員として百分り三十どうするのだ。さけいだという様な感じもないけれども、少ないという感じも無いと思ふ。

議員に百分り三十くらいとするならば、議員にある程度今後市長は相談していただきたい。

予算に組んであるのは、議員として、やはり二五で満足すべきが当然だろうと私は思ひますけれども、その点について相談は、特に市長のみで取り計らいによらず

議員々皆さん、代表者と相談した結果におけることを今後  
要望する次第です。

副議長（西村真次君）他に御質疑ございませんか。——御質疑  
なしと認めます。

二より本案に対する採決を行ないます。

本案を討論省略（原案通り）可決するに御異議ありま  
せんか。

（「異議なしと呼ぶ者あり」）

副議長（西村真次君）御異議なしと認めます。

よって本案は原案通り可決されました。

日程第二 認定第一号乃至第七号 報告第五号 議案  
第七十八号 七十九号 及び議案第八十一号乃至八十九号  
を一括して議題といたします。

この際申し上げます。ただいま議題となりました各議

案はまず、こゝより、こゝが内容説明を求め、うちに内容の審議に入りたいと思います。

こゝに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(西村真次君) 御異議なしと認めます。

よってこゝより説明を求めます。

まず決算書は第一号から第七号までを一括して説明を求めます。

打お、おはかりいたします。

こゝ際朗読を省略することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(西村真次君) 御異議なしと認めます。よって朗読は省略させていただきます。

(市長 登壇)

市長（本間 謙 君）決算書に關し、まして提案理由、御説明を申し上げます。

ただいま提出いたしました認定第一号より第七号に至る昭和四十二年度、館山市一般会計及び大特別会計につきまては、それぞれ御審議をわすけ、わすけてあります。が、御承知のとおり、本決算については、地方自治法を定めるときにより、まして監査委員の意見を付けて、議会に認定を得ようとするものであります。

顧みますると、昭和四十二年度、地方財政は、国が高度成長の中で、景気の調整の段階にあり、経済事情の伸縮的安定が、景気振興のために、積極的には、かかる。かつ、影郷音、大きい中で、引き続き、減税政策の実施、また、国税三税の鈍化により、ますます、地方財政の伸び悩みという状況の中で、地方自治体においても、地域



格差あるいは生産性格差による地方自治体財政格差が顕著に現われてきたのであります。

こゝような全国的な情勢下の中にあつて、当館山市にとつても例年に増し、さらに若い財政事情の中に当面しておたがひであります。加えて市発展のため数限りない、また財政経済成長の高度化、近代化の中でどうしても地方公共団体が整備しなければならぬ公共事業、大型化など山積した諸問題を限られた財源の中で健全性を維持しつつ、市民福祉の増進に最善の努力を尽くして参つたのであります。特に予算執行面におきましては、前年の決算審査特別委員会さらにはまた予算審査特別委員会より御指摘あるいは要請があった事項も十分配慮検討いたしまして、真に六万市民と一体となつた行政の執行に効果を上げる<sup>得</sup>よう努めて



参りました。

特に観光・産業・教育の重点施策を中心として積極的に取り組みだすてありますが、その具体的なものといたしまして当市の市勢発展の基とも根幹をなします道路網の整備・房総西線への電化促進、また産業基盤盤となり、農業・漁業の近代化をはじめ、市民生活上、不可欠ともいえる交通・安全対策、上水道施設、及び簡易水道施設の促進、さらには住民福祉の場とする市民センターの建設、市営住宅、及び青年館の建設等があります。

また南国ロード豊かな海岸通りへの緑の植栽、城山公園の整備をはじめ、観光開発の推進があります。このように住みよい中で教育効果の向上をはかり、房南中学校の改築、学校備品の充実、PTA負担の軽減のほか、第一回日米姉妹都市、学生、派遣など努力を参ります。

たが、一方財政弱小団体や減を免れない本市の歳入源の確保をはかることも何より必要であります。これが、最善を尽くすとともに最劣の経費で最大の効果を上げよう努めて参りました。

もちろんこの間には、議会をはじめ各位の全面的な御協力、御援助をいただいたのであります。この結果幸いにも昭和四十二年度においては、一般会計ほか大特別会計、歳入計十四億五千百万余、歳出計十四億五百

余万、翌年度へ繰り越し分財源を除き、実質収支は三千六百二十二万九千円、繰り越し金を生み決算をとげることができました。これは、市議会議員はじめ各位の御努力によるものと感謝いたしておる次第であります。以上、その概略を申し述べましたが、主要な成果につきまゝては、歳入歳出事項別明細書、実質収支に関する

調書財産に関する調書等にあり御了承を願いたいと存じます。なにとぞ慎重な御審議うほどをお願いいたし一言提案理由を申し上げた次第でございます。

副議長(西村真次君)報告第五号から逐次説明を求めます。衛生施設課長(大嶋重義君)報告第五号につきまして御説明申し上げます。

これは水道の設置及び管理に関する条例の一部を改正いたすことについての専決処分を行なったものでございますが、こゝろ条例改正の趣旨について先に御説明申し上げます。本市の簡易水道は四つあるわけでございますが、そのうち、波左間及び加賀名地区簡易水道並びに鉾切の簡易水道を一つに統合してその名称を西岬簡易水道と改称いたしたものでございます。

で、その統合の理由でございますが、この両水道とも夏場に

水不足等ございます。これを解消するために今年の夏  
二本の井戸を掘りまして水源の拡張をはかったわけでござい  
ますが、この水源拡張の計画変更の認可手続きに当  
りまして、果から面水道は、地理的条件施設状況等も考慮  
しておる中で、簡易水道の広域化の見地から、これを統合するよ  
う強く指導を受けたわけでございます。この水道の合  
理的な揮毫をはかるために統合に踏み切ったわけでござい  
ます。

次に一部改正の条文につきまして御説明申し上げます。

第一条でございしますが、ここで「波左間及び加賀石地区簡  
易水道」「鉾切簡易水道」があるわけでございしますが、こ  
を「西岬簡易水道」に改める。そこで設置場所もここ  
にありますように西岬に見物ニヤロにいたったわけでご  
ざいます。

第一条中には水道施設の名称位置といたしまして宮城簡易水道・南条簡易水道・今ミに揚げております波左間・鉈切と四つ揚げてあったわけでございます。これによりまして、これから、宮城簡易水道・南条簡易水道・西岬簡易水道と三つに相なったわけであります。

次に第二条でございますが第二条は給水区域を規定してございます。

第二条には「給水区域は次々とおりとする」ということで四つ、それぞれ水道施設、名称とそれぞれ給水区域を大字をもってうたてあるわけでございます。

今回の統合改正の大字名を西岬簡易水道といたしまして、従来の波左間、加賀石地区水道と鉈切水道の大字を一本にミに改めたというわけでございます。

それから第三十五条でございますが、これには料金関係が

規定してございます。

この料金関係の中にはやはり同様に専用給水装置とそれから共同の給水装置ということがある。たゞその中にはやはり、たゞいま説明申し上げましたように、この被左間と鉤切関係のものである。うたててございませう。これを西岬簡易水道に改称するというものでございませう。なお、この専決処分でございますが、水源の拡張のために二本の井戸を掘さうとしたことにつきましてはお話申し上げましたが、その財源には、四百万円、起債を求めておりまして、ところがこの認可手続の期限が十二月十日と、果土木から指定されて、その期限までに、その意思決定が必要であるということから、この手続を急ぎました関係上、地方自治法第百二十九条第一項の規定により、専決処分をいたした次第でございます。

なおこの条例は認可であった日から施行するということでございますが、果から電話で認可の内示も受けておりますので申し添えます。

副議長（西村真次君）議案第七十八号について説明を求めます。建築課長（池田春雄君）議案第七十八号について説明いたします。これは公営住宅法施行令の一部改正が四十三年十月十五日政令第三百七号によって改正されたもので、その改正されたことに基づいて市条例の一部改正する議案でございます。最初に扶養控除が今まで一人「二千円」でありましたものが「三千円」に改まる。

それから二種住宅の「二万円」以下というのを「二万四千円」に一種住宅の方が「三万六千円」であったのが「四万円」にこう改められました。

それが入居資格者の収入基準でございます。

次に第三五条 二項とありますのは、割増し家賃の問題でありすが、一種の方で収入が四万五千円以上になった場合、割増し家賃を取るようになっておるんですが、それを「五万円」

それから二種の方は二万五千円以上になった場合、これを「三万円」に改めるようになってあります。それで今、一種の方が収入が五万円になるまでは、割増し料金は無いわけで、それから上の人について、割増しを取られるようになります。

その率は一種が〇・四割、それから二種の方が〇・三から〇・八までの間に取られるようになってあります。

それから入居の収入基準の方は、四十三年十二月一日から割増し家賃の方は、四十三年四月一日から施行するようになります。

以上です。



副議長（西村真次君）議案第七十九号 説明を求めます。  
福祉事務所長補佐（山口一君）議案第七十九号につきまゝて  
御説明申し上げます。

老人家庭奉仕員派遣事業に関する条例でございます。  
「目的」につきまゝては先ほど市長さんの方からお話がござい  
ました。老人福祉の増進ということでございます。  
次に「定義」でございます。

老人家庭奉仕員派遣事業とは、身体上または精神上の  
障害があつて日常生活を営むのに支障がある老人家  
庭に対して老人家庭奉仕員を派遣し、無料で老人の  
日常生活の世話を行なわせ、もつて老人に健全であら  
うな生活を送らせるを目的とするわけでございます。  
次が「派遣」の対象でございますが、奉仕員派遣対象  
は館山市内に居住するおおむね六十五歳以上の方で老

衰あるいは心身障害等、理由によりまして日常生活を行なうのに支障がある老人の貧困世帯に對しまして派遣をするわけでございます。

ここで低所得の家庭と申しますのは、被保護世帯、市民税の非課税であるか、また均等割以下う世帯というふうに考えます。

それから、ここで対象外として考えますものは、精神病の方、それから入院をされている方、それから奉仕員に對しまして非行のあった者、このような方は対象外として考えております。

次は「奉仕の業務」でございます。

老人の生活に直接的、平常的に必要なものといたしまして、家事、介護に關するもの、それから相談、助言に關することでありまして、家事、介護に關することといた

—まゝて、具体的に申し上げますと、食事の世話とか、洗たく、あるいは衣類の補修、掃除、整理整頓と、身の回り、の世話、生活必需品の買物、その他、日常的用務があるうと思ひます。

相談、助言に關しましては、生活あるいは身の上相談、それに対します。助言ということがあるうかと思ひます。一応、ここで、日常、直接的、平常的に必要なものとして、それに該当しないものとして、考えておりますものは、対象の世帯の生産的活動に属します。業務は非該当にする、という考え方でございます。

たとえば、田畑の耕作とか、それから商品の販売とか、そういうような業務は、奉仕の対象にはないということでございます。

それから、家屋の補修とか、便所の汲み取り、大掃除、

そういうのも日常的、あるいは直接的には関係ないと思っております。

それから、派遣回数と担当世帯数でございますが、奉仕員の派遣回数につきましては、大体週一回以上を派遣する。二、三回にしろうかと思ひますが、そのように考えております。それから、奉仕員一人当り、担当世帯数でございますが、これはおおむね一人、二世帯程度を受け持つてもらうということに考えております。

なお、この派遣回数なり、あるいは担当世帯数につきましては、あらかじめ対象者を調査いたしまして、対象者に対する世帯数をきめていきたいと思います。

それから、奉仕員の身分、資格でございます。

奉仕員の身分は、常勤、市職員といたします。

それから、資格でございますが、これにつきましては、

一応市庁職員でございますので、地方公務員法に当然該当することになると思いますが、仕事の特殊性からいいますと、次うようなところを特にうたったわけでございます。

年令はおおむね二十五歳以上の女子であること。これは仕事の内容が老人の世話でございますので、あまり若い方でも困るということと、一応二十五歳以上の女子の方にきめたわけでございます。

二番目といたしまして心身ともに健全であること。これは健康である方ということでございます。

三点といたしまして老人福祉に理解と熱意を有してゐること。これは仕事がお年寄りに対する仕事でございますので、老人福祉に関しまして、そう方が理解と熱意を持っていなければ困るということとで上げたいわけでございます。

ございます。

四番目が家事、介護、経験と相談、助言の能力を有すること。

これは奉仕員の業務の内容からいたしまして、家事、介護、経験のない方では困りますので、家事、介護、経験と相談を受けた場合にアドバイスする能力がなければならぬということ、これを上げたわけでございます。

以上、四点が奉仕員の資格として上げております。

次に、奉仕員の服務についてございます。

奉仕員は決定された奉仕的業務の内容、範囲内において、誠実に奉仕を供与しなければなりません。

これは先ほども申しましたけれども、供与します奉仕業務というものは、あらかじめ、その担当者、名簿に

応じて決定さかて奉仕員の方はその決定さかた内容によつて老人の方にサービスをしていただくことになるわけですから二番目といたしまして奉仕員は、その業務に従事するにあたり老人福祉法第六条に規定さかる社会福祉主事の指導のもとに常に民生委員または保健所等との関係機関と連絡を密にして業務にあたるものとします。

老人福祉を担当する職員は福祉事務所に設置しなくてはならないことになっております。その方々指導を受ける上でさらに民生委員とか保健所等との関係機関と連絡を密にして仕事にあたるようにということでございます。

三番目は、服務中常に別に定める身分を証明する証票これは身分証明書でございます。

家庭の中に入るわけでございますので常に身分を

証明する書類を携行して業務にあたるということ  
でございます。

四番目といたしまして奉仕員が服務について必要な事  
項は別に定めるところによる。これは市、職員服務規  
定その他が、あろうかと思ひます。

次に「申請及び決定」でございますが、奉仕員が派遣を  
希望する者は別に定めるところにより市長に申請しな  
ければならない。

これは奉仕員派遣申請書というものを提出してもらおうと  
思ひます。

いわゆる申請行為をここで取ったうは、家庭の中に入り  
ますので本人が希望しないものをこちらから無理にやる  
ことはできません。希望する者、いわゆる申請行為を  
していただく。



次が申請があつたときには、実地調査等により、派遣可否を決定し、その旨を当該申請者に通知することになっております。

この実地調査でございますが、先ほど申しましたとおり、対象者より要求する奉仕業務をきめるためには、当然実地調査して対象者がどうしようないかを希望しているか、調査する必要がある。その調査によりまして、派遣可否を決定するということにいたしました。

決定に当りましては、必要度より高い者から優先的に決定する、という考え方を持っております。

次が派遣、「取りやめ」でございますが、奉仕員より派遣を受けたい者が次う番号に一に該当するに至つたときは、派遣を取りやめる。死亡したとき、辞退があつたとき、第三番に該当しなくなつたとき、その他、派遣の必要がないと

認めたととき、

申請行為を取っておりますので、辞限をしたときには、派遣を取りやめるということとなります。

第三条は派遣の対象のところで御説明いたしましたように、そのような状態でなくなったときには、派遣を取りやめることとなります。

その他に対象者の状況によりまして、変更とかあるいは、停止の処分も取れるようにしたいと思っております。

次は、帳簿の整備でございますが、この事業を行なうためにケース記録その他必要な帳簿を別に定め、整備するというところでございます。

一応考えられます帳簿といたしましては、奉仕員の派遣申請処理簿、奉仕員派遣者台帳、ケース記録表等を考えております。

副議長（西村真次君）午前十時、会議はこゝにて休憩いたします。

午後一時、本会議を開会いたします。

午前十一時四十四分

休憩

午後一時五十一分

再開

副議長（西村真次君）午後、出席議員数 二十三名。

休憩前に引き続き会議を開きます。

こゝに際し、日程についておはかりいたします。

議案第八十二号を都合により先議いたしたいと思ひます。  
こゝに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

副議長（西村真次君）御異議なしと認めます。よつてこゝに

際し、日程の順序を変更し、議案第八十二号を先議す。

ることに決定いたしました。

議案第八十二号を議題といたします。

人事課長（小沢正治君）議案第八十二号につきまして御説  
明申し上げます。

教育長、給与額、改定でございます。

市の職員に教職員、職員を迎えた場合、教育職員  
として勤務しておった場合より比較から、均衡を失し  
ないようになっているわけでございますが、今後教育長が  
十月一日で小学校長から、市、教育長に任命され  
た関係で、そのまま学校に校長としておった場合と、  
給料額と教育長となった場合と、給料の額、調  
整関係から、一応、九万二千円を「十万円」に改正しよう  
というものでございます。

現場にありますと、大体十萬九千円がちょっと欠けるという

額になるわけでございますが、これを十一月月に改めたいというものであります。従いまして、その適用期日をさか

上りまして、十月一日から適用し、そうしてこの改正の関係で今まで支払って参りました給料につきましても、この改正に基づいて定められた額のうち払いとみなすというものでございます。

副議長（西村真次君）御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

こゝより本案に対する採決を行ないます。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

副議長（西村真次君）御異議なしと認めます。

よつて本案は原案通り可決されました。

議案第八十一号から逐次御説明願います。

衛生施設課長（大嶋重義君）議案第八十一号につきまいて、

御説明申し上げます。

こゝ議案でございすが、館山市の水道の設置及び管理に関する条例の一部を改正しようとするものでございます。

こゝ趣旨でございすが、今回南部簡易水道の完成に伴いまして、その名称、位置及び給水区域を条例に設けることが一点でございす。

それから、いま一つは、こゝ条例中に一部用語の不統一が部分がございますので、これを整理しようとするものが二つ目でございす。

以下条文により御説明申し上げます。

第一条でございすが、こゝ第一条の表中に次、事項を加えて「南部簡易水道の位置」といたしまして「館山市

神余四千三百二十番地」この第一条には、設置及び位置が規定されてゐるのでございます。現在宮城簡易水道、南条簡易水道、西岬簡易水道の三つでございますが、これに南部簡易水道を加えて四つ簡易水道になるものでございます。

次に第二条でございますが、第二条は給水区域を規定してございます。そこで南部簡易水道を設置することによりまして、大字神余・竜岡・中里・犬石・大神宮・相沢・布良」この大字を給水区域にしたいというふうにございます。

それから第五条と第二十五条の関係でございますが、この両条文中に用語といたしまして、「一般用」「家庭用」、それから「営業用」「特殊用」という用語が用いられてゐるわけでございますが、これらは条文中におきまして

「特殊用」と「営業用」は全く同じ内容のもうでござい  
ますし、「家事用」と「一般用」は同じものを意味して  
おります。第五條の二号中に「特殊用」とあります  
ものをこれを「営業用」に統一していきたいと思つてござ  
います。

それから二十五條の第一項の第二号でございますが、こ  
の二十五條は料金關係を規定してあるわけでございますが  
この中に「専用給水装置」と二号の方で「共用給水装置」  
と表によつて区別してございます。その区別の中にこれが

「家事用」と「営業用」となつておりますので、この点に  
つきまゝでは、これを「家事用」とありますものを「一  
般用」に統一して改めたいと思つてございます。

なおこの二十五條の一号、二号の中に従来、西岬簡易  
水道、宮城、南条と入つております中に「南部簡易水



道<sup>レ</sup>を一つ加えていきたいということ、二十五条を改正いたしたいと思つてもうてございます。

そうしてこの条例は公布の日から施行して参りたい。このう打内容でござります。

土木課長（飯田治男君）議案第八十三号、市道路線の変更について御説明申し上げます。

次のページに図面をさらしただきだと思います。

本路線は宮城、航空隊、三差路から鷹ノ島に通ずる道でございまして、昨年漁業会の前、道と交差点までは認定いたしました。今回こゝを鷹ノ島の下まで延長して認定いたそうというものでございまして、この道路用地は全部大蔵省用地になっておりまして、先日鷹ノ島の下、旧軍用スロープ跡、う払い下、ケ、関係で国とも道路敷というふち合ひまして、道路の境界

もはっきりいたしましただ、認定後は国から譲与を受けたいと思っております。

以上で説明を終わります。

企画課長(石貝茂生君)議案第八十四号、字う区域及び名称の変更について御説明申し上げます。

こゝ上真倉代田う区域でございますが、国面がございすが、隔離病舎う跡、警察署う寮がございすが、あり東側う区域でございます。

こゝう区域の中に下真倉う区域が大半でございますが、その中に上真倉が飛び地が二三ございます。

鉄道線路寄りに一筆、その地域を開発公社におきまして住宅団地う造成計画を進めておりますが、これが完成いたしますと一応三十数区画に分割いたしまして地番う決定をして住宅団地としてう分譲をいたしたいという

ことで、近い将来、これを分譲する關係上、「大字上真倉代田」と「北条金堀」これを「下真倉代田」ということに字の變更をお願いしようというものでございます。

・財政課長（長谷川広治君）議案第八十五号、四十三年度より一般会計補正予算の第四号について御説明を申し上げます。今回、補正におきまして、歳入歳出予算、債務負担行為の補正、地方債の補正、三つを補正いたしたく提出をいたしてございます。

歳入歳出予算におきましては第一条にお示しをいたしてございますが、歳入歳出にそれぞれ二千八百六十五万四千円を追加いたしまして、予算規模が十一億二千八百五万三千円ということにいたしたいという予定でございます。

より二千八百六十五万四千円の内訳を申し上げますと、節における金額で純追加額が歳入面におきまして二千九百四

十萬五千円更正いたしました額が七十五萬一千円ということに相なります。

歳出面におきまして純追加額が三千九百八十九萬二千円、更正をいたしました額が組みかえ等も含めまして一千百二十三萬八千円ということに相なります。この結果、財源比率で申しますと、特定財源が総額が三七・二%、一般財源が六二%、一・四%増、一般財源が一・四%マイナスということになります。

なお、各款項目ごとにおける補正額は別表一より歳入歳出予算補正ページ数で申し上げますと一五ページから四ページ、歳出の明細書により順次御説明を申し上げます。次が債務負担行為の補正でございますが、第二条にお示しをいたしましたとおり、債務負担行為を今回

いたしてございしますが、こはページ数五ページに計上を  
いたしてございしますが、北条小学校等、用地買収、こ  
等とは幼稚園を含めてございしますが、総額八千四百六十  
九万八千円で坪数で申し上げますと一万一千坪を開発  
公社より買い受けたいということで本年度負担行為をお願い  
いたしますわけでございます。

内容としましては四十四年度におきまして三千七百五十万  
四十五年度におきまして残り、四千七百十九万八千円をお  
願いたしたいというふうにございます。

なお第三条に地方債、補正を計上いたしてございま  
すが、こはページ数は七ページ上関でございしますが、  
館山市営プール、脱衣所及び管理事務所、災害  
復旧事業債といたしまして二百七十万円を今回補正して  
追加をお願い申し上げたい。こは最初、予定でござ

いますと、純粹々復旧坪数よりも大きく建築をいたしましたために起債が対象外だということて予定をいたさなかつたわけでございますが、その後いろいろ折衝をいたしました結果、二百七十万程度のものは許可しようというふうな交渉結果ということになりまして、今回、この二百七十万を限度額にして起債の方法、利率償還の方法等、それぞれそういうふうに補正をいたしたいというもふがございます。

以下歳入歳出予算につきましては、人件費を最初に申し上げまして、以下それぞれ主管課長から御説明を申し上げます。

。人事課長（小沢正治君）それぞれは引き続きまして補正の内容の主要をいたします。人件費の関係で申し上げます。

二七ページから二八ページにかけて、給与費の明細が掲げて  
ございますが、このように各款項別に今回補正追加をお願い  
するわけでございますが、二八ページの総額欄で給料にお  
きまして百九十六万七千円、職員手当で三百五十五万八千円、  
共済費で十五万八千円、合計五百六十八万三千円を追加をお願い  
するわけでございますが、御承知のように人事院勧告に  
基づきます国家公務員の給与改訂がだいぶさか上りて実施  
される予定でございますし、それに伴いまして地方公務員の  
給与改訂も国家公務員に準じて実施するという方向が  
大体固まりつつあるわけでございます。そういうような段  
階でございしますが、最終的に決定的なあり方がまだはつ  
きりいたしません関係から、この十二月の期末手当とそれ  
から一応来年度の二月までの給料、あるいは時間外等々  
手当関係が支払い可能になるようにここで補正すると



いう方針でございます。従いまゝて大体三月に給  
 与改訂を見込まれますが、一応現在う段階では各  
 款項別に補正追加をお願いいたしますところは不足  
 けれども逆に現在うままならば余るという課目もあるわ  
 けてございますが給与改訂を実施する段階では一応  
 不足してくるという段階でございますが、一応現在う  
 課目で二月までに支給する額がこゝ程度足らなくなる  
 という部分についてのみ追加をお願いするというわけござ  
 います。従いまゝて給与改訂を見込みまして現在余  
 る部分については、その給与改訂のために一応手をつけな  
 いでおきまして不足する部分だけ手当う二月までう不  
 足を生ずる部分を追加をお願いするということござい  
 まゝて先ほど申し上げましたように給料と職員手当と  
 共済費三種目についてそれぞれ不足するところだけを



五百六十八万三千円というところで追加をいたしたいというわけでございます。こゝ扱ひ方につきまゝでは特別会計につきまゝしても同じ方針で追加をお願いしてございますので御了承願いたいと思ひます。

それから引き続きまして一六ページニ款総務費の中々第一項総務管理費の八目事務改善推進費について御説明申し上げたいと思ひますが、ここで九節旅費で六万六千円の減額、十節負担金補助及び交付金二万四千円の減額、十一節需用費で九万円の追加をお願いするわけでございますが、旅費負担金の関係は毎年参加して参りました日本事務能率協会が主催になります公務能率研究全議というものが全国的なスケールの中で実施されておるわけでございますが、最近こゝろが参加団体が非常に増加いたしまして本年は全国統一に行なわな

いて西日本・東日本というふうに分けて実施するというこ  
 とになりまして、東日本関係は本年度見送るということも  
 ございまして、その関係費として旅費六万六千円、負担  
 金二万四千円が使われなくなり、関係でここで補正  
 減額しようというものでございます。

それから需用費が九万円でございますが、これは事務  
 改善を数いた団体で住民に對しまする市役所の窓口  
 関係のPRを相当充実した形のPR誌を発行する  
 予定であつたわけでございますが、一応その後部分的な  
 改善等行なわれます中であります。た説明書と実態とが  
 若干違つてくるようなことがすぐ起きても、工合が悪いとい  
 うことで、私たち一応落ちつく段階を待ちました。最近にな  
 りまして、市長の窓口事務関係の強化という関係  
 と福祉事務所関係の強化等がございまして、早急に

この段階で住民に対する窓口事務のPRを積極的  
に取り上げていこうということでは一世帯ずつ配布いた  
したい。窓口は住民の案内といえますが、住民の権利、義務  
に関する手続関係もある程度わかりやすく説明する  
プリントを配布する予定でございます。

消耗品の四万は表紙代でございしまするが、一枚二月で  
二万部を予定いたします。

それから五万円で印刷を外注するという性格でございします  
ことによりまして大体その冊子があれば住民の権利義務、  
いわゆる市役所の窓口はきてお願いする事務につ  
きまゝでは大体わかつていただけるといふようなものの解  
説書を印刷したいというものでございします。

秘書課長（小倉澄男君）一七ページをお開きをお願いい  
たします。

市史の編さん費につきまして御説明申し上げます。  
 需用費が三万九千円をあとにしまして十三節の九十五  
 万円でございますが、こゝは当初予算に市史を編  
 さんするという事で館山市市史編さん委員会、中央  
 大学、森教授を中心とする調査会に年間百三十五  
 万円をもちまして調査の契約委託をいたしておられ  
 でございますが、予算編成上当初百万円に計上  
 いただきませんでしたので三十五万円をさらに調査を今  
 までできてきました段階におきましてどうしても、もっと  
 資料が必要であるという事は結局、古文書等、も  
 っと広範囲にわたって調査しなければいけない。

こういう問題に迫られますと中央大学の方と交渉い  
 たしまして、森教授の直弟子で講師をやら  
 せらるる菊池講師をリーダーといたします。大学が

学生七名、大学院の学生三名、約十名、学生が中心となり、暮に五日間、二月に二週間、三月に二週間、市内、古文書等、らみつぶしに調査いたしまして、それを分析にかけるといふようなことがお願いできまして、その委託を延三百五十二人の方が、館山市にきて宿泊、して調査をしていただく。その宿泊手当が千五、六百円かかります。旅費、その他手当等を含みまして、総額、六十万円をここに委託料としてお願いしたい。

それを合わせまして、九十五万円の委託料、補正をお願いしたい。

それに関連いたしまして、古文書は、その際、写真に取って、永久保存、さらに、そのうち、虫筆、段階におきます、する資料にいたしたい、ということ、その需用費として、消耗品、一万、印刷製本費、二万九千円、合わせまして、九十八万九千円を

計上してお願いする次第でございます。

庶務課長（山口実君）一五ページ二目 文書広報費について説明申し上げます。

今回五万五千円を追加をお願いしようというものでございます。七節賃金三万円は豊房地区の配達は従来診療所の小使いが兼務して豊房地区の文書を配達しておたうてございますが、今回診療所の小使いが選任になった関係上、文書の配達を地元の人を雇いまして配達しようというものでございまして五カ月分でございます。

次に十一節の需用費二万五千円、ただいま使っております文書の配達の車が古くなりまして、すでに修繕費を使用し尽くした関係上、さらに二万五千円をお願いしようというものでございます。

次に五目統計調査費、今回統計調査費におきまして

十四万円・追加をお願いしようというものでございます。

漁業調査費におきまして十三万二千円でございますが、果より委託金が参りまして漁業統計調査の事務量が多い関係上、臨時職員を雇い上げて処理するように、三万というふうに内示が参りまして、ここで七節賃金十一万二千円を計上したものでございます。これが臨時二人分、五ヶ月分でございまして。

次に報償費二万二千円、これは調査員六人分でございます。次に五目工業統計調査費、八目住宅調査費、おのおの果から委託金が増額されたので、さらに調査員の報酬に充てようというものでございます。

財政課長（長谷川広治君）大へん御迷惑でございしますが、一五ページ議会費を御説明申し上げます。

今回議会費に七十五万二千円を計上いたしました。人が人件

費を除きますと旅費以下目でございます。

旅費に今回十万円を不足予定をいたしまして追加をいたしました。備品購入費は議会用機と申しますか参入座る机等が収容できなくなって参りましたのでその購入費一万円計上いたしました。

十九節の補助金等でそれぞれ説明欄に掲げてあります団体名の負担金等が内定あるいは決定等をいたした結果それぞれ金額が更正できるという事になりました。その額二万円を更正いたしたわけでございます。続きまして十六ページ財政管理費今回旅費として二万円計上いたしております。これは当初予期はなかつた年度中途におきます担当者の交代と起債が一伴ふえましたために予想外の旅費がかかりました。年間不足見込み額として今回二万円お願いしたわ



けでございます。

五目、財産管理費として七十五万円計上いたしてございます。  
この内容といたしましては、需用費におきまして二十万五千  
円の修繕料、この内訳は自動車、修繕費として五万円。  
それから庁舎の地下水のわき水と申しますか、これが一カ所  
出て参りまして、この処置をしなければいけないということに  
なりましたので、この費用として見積り額十二万円を  
計上いたしてございます。

それから最近外部にお客さんが入りまして、便所がつま  
るというのと、ときどきなるわけですね。この費用として  
年間、不足額五万程度、合わせまして修繕料二  
十二万五千円を計上したわけでございます。

この庁舎の修繕料、財源といたしまして、十三節に庁  
舎の清掃委託料として当初十五万計上いたしたわけ

ございますが、財源が乏しい年度でございますが、清掃は今までどおり、ばらけの間、職員でということ、財源のために十万円を更正いたしました。

それから十二節の役務費におきまして、六十六万、通信、運搬費として、電話料を計上してございます。

この電話料におきましては、当初市民センターの電話は、市民センターへ直接引くというふうな予算で予算計上をいたしたわけでございますが、その後いろいろ観点から、市の庁舎と交換台を通して、何本か、市民センターに引くというふうなことに、なりまして、ために現在、見込みとして、約年間、これから、六十六万程度不足いたしますので、今回追加をいたしたわけでございますが、この財源は、市民センターの財源から、二十万円を減額して、この六十万に充ちたててございます。

なお十四節の使用料及び借借料におきまして八万月々更正をいたしてございます。

これは当初予算におきまして自動車と営業車を借り上げて運転配置をするということで計画いたしたわけでございます。

二カ月間遅れまして、それからもう一台が車検までもちまいたので、それをフルに運転をいたしまして関係で現在約八万程度年間繰り越すではないかという予想をつけまして財源更正うために八万月を減額したわけでございます。

商工観光課長（山田俊康君）一六ページ諸費について御説明申し上げます。

八十五万五千月々減額であります。車道外側線工事七十六万二千月々、これは通園通学路にかかります。

交通安全施設等の救正備及の踏切道の構造改良等に関する緊急措置法に基づく事業として計上したわけでございますが、その後法律の一部改正がありまして交通安全対策特別交付金というふうになりまして一口にいますと交通反則金ですか、反則金の還付金、どちらか方でまかなうようにということである。初計画いたしまして船形から一中までの車道外側線工事も終りましたので、残を更正しようというふうであります。補助金と関係では一ページに六十七万一千円、通学路交通安全施設等整備事業補助金が減額になりました。九ページ交通安全対策特別交付金が四十九万三千円増額というふうな関係であります。

十九節、県交通相談所の負担金十万七千円、減額。これは従前行なっておりますが、千葉県交通安全協

会連合会で交通相談所を運営してあったのでありますが、この四月から千葉県直営になりまして交通相談所の負担が不要となったために、ここで更正しようというもろ、  
ございます。

それから旅費が一万四千円につきましては交通指導員が市内出張旅費、研修旅費等が三月までの間一万四千円不足見込みでお願いした次第であります。

福祉事務所長補佐（山ロー君）一セページ民生費につきまして御説明申し上げます。

社会福祉総務費十九節でございますが、歳末にあたりまして市からの生活保護世帯の見舞金、一世帯五百円、三百世帯、十五万円、二十節、これは身体障害者に對しまして補装具交付の不足分でございますが、当初の計上より増加いたしました十一件分十一万三千円を追加い

たしたいと思ひます。

一八ページ第三項でございますが、七節、こゝは保育園  
の臨時職員への賃金が不足いたしますので、十一万九千円  
の追加をお願いしたいと思ひます。

それから、保育園の産休の代替職員への賃金、本年度  
一名の産休がございまして、その職員への代替職員への賃金  
の追加でございます。

こゝは一人一日千二十円、割合で三十七日分でございます。

こゝにつきまゝでは金額果より補助がございします。

以上です。

・市民課長（羽山房雄君）引き続きまして一八ページ、国民年  
金事務につきまして御説明申し上げます。

今回の補正で二十三万一千円、追加をお願いいたします。こゝ  
います。その内訳で九節の旅費におきまして、二万六千円

こゝは年度内に不足見込みを計上いたしました。

さうに十八節の備品購入費におきまゝで二十万願ひいて  
いるわけですが、この内訳はただいま市民課で使っておりま  
す。騰写機が老朽にて参りまゝなので、こゝを十七万円・

それから拡声機三万円このような備品を購入いたしたいと  
考えまゝで計上したわけでございます。

なお十九節の負担金におきまゝで五千円の不足を生じ  
ました。願ひするわけでございます。

この財源につきまゝでは補助金の関係で国民年金事務費  
でお願いするわけでございます。

この財源につきまゝでは補助金の関係で国民年金事務  
費でお願いするわけでございます。

全額国の補助金でまかなうわけであります。

よろしく願ひいたします。

保健衛生課長（綱島急治君）四款の保健衛生費のうち、予  
防費で九十一万の追加をお願いするわけでございますが、  
十一節需用費三十五万の減でございますが、これは勸  
奨による原材料費でございますが、破傷風を最初  
一万人を予定したわけでございますが、これが五千人に  
減りました関係。

それから、これは勸奨でございますが、インフルエンザ、これも  
若干減りました関係で総額におきまして、三十五万円の  
減額。

次、委託料百二十六万、補正をお願いするわけでござ  
います。当初一千人を予定いたしましたがん検診が  
ふたをあけてみまいたところ、非常にたくさん希望者  
がございますので、さらに一千人の検診の委託料を  
お願いする。こういうわけでございます。以上です。



・農林水産課長(伊藤幸太郎君)引き続きまして、大款より農林水産業費につきまゝて申し上げます。

まず、農林業振興費でございますが、五百九十一万九千円の追加をお願いしたいというわけでございます。

その内容といたしましては、まず、工事請負費が十萬、これは先刻市長から申し上げました、猷毅の場所と一昨年でございます。また、皇太子の御来房記念の記念碑、三基を建てたいということで、工事請負費十萬円をお願いいたわけてございます。

それから負担金補助及び交付金におきまして、五百八十一万九千円が追加でございます。

これは、最初に國共農業復旧資金利子補給、これは本年の二月にございまして、雪害対策の補助金でございます。



を改修いたしたいという事で、いろいろ果と話し合い、了た結果、果よりハハ%の助成をいただき、了て市が二〇%持ち出をいたし、了て六百万の工事をいたしたい。

大体延長八百メートル、現在三、六メートルの道路を六メートル道路にいたしたいという計画でございます。

それから、原材料費におき、了て十万円。これは、各部落等に、対し、了て、し字、溝、あるいは、土水管、その他、原材料を、交付し、て、おる、わけ、で、ござ、います、が、若干、年度、末、までに、不足、見、込み、で、ござ、います、了て、今回、十、万円、お、願、い、いた、したい。

次に十九節の七十三万一千円、追加でござ、います、が、まず、平久里、りの、河、口、の、潮、止、工事、の、工事、費、が、本年、二千、万円、という、こと、に、決定、いた、した、了。これは、果、港、の、工事、で、ござ、います。

であります、了て、地元、負担、金、として、市、は、その、一割、程度、二

百万円をお約束でございますので、今回二百万追加いたし  
たい。

それから三角がございますけれども、これは現在犬石部落  
で巴リからう揚水を行なつておるわけでございますか、  
当初単年度事業として計画をいたしたわけでございます  
が、いろいろ予算<sup>額</sup>が関係から二年度計画ということに  
変更いたしましたので、その分を一応補正するわけでござ  
います。次々第三項の水産業費でございますか、今回四百五十万  
余の追加でございます。今回追加におきましては、まず構  
造改善事業の経営近代化補助金として三百五十七万五千  
円、これは現在船形漁協におきまして、荷さばき所の建  
設を行なつておるわけでございます。こゝ荷さばき所の  
上に非常に老朽化しておりますので、事務室等を建て  
たいというところで計画いたしまして、国が認可を受けまして

今回三千万程度の工事費が認可になりました。

そういったしました場合に国から千百三十二万円余の補助金が参るわけでございます。

それに市といたしまして合計四百五十万程度の助成金を一応内定してあるわけでございます。本年度は、そのうち半

分を今回計上いたしまして補助金を出したいという計画でございします。

次の漁船まきあげ機、工事でございますが十二万、これは現在西リ名で二基まきあげ機を造成いたしましたので、それに対する助成金でございします。

次の漁業教室奨励事業補助金、十四万三千円、これは船形ですぐに実施済でございします。漁業教室を開設いたしまして講師をお願いいたしまして、気象の關係あるいは機関の關係、そういったものに対します。認識を高

めようということで漁業教室を開設いたしたわけでござい  
ます。それに対する補助金でございします。

最後にさんま不漁対策の補助金でございしますが、今回  
さんま不漁対策資金として三百万を二人の関係者で借  
り入れすることに相なったわけでございします。

それに対する約二分程度の利子補給を市として出し  
たい。これは県が補助もあります。合わせて市と  
して出したいということで二万円計上してございします。  
以上でございします。

・商工観光課長（山田俊康君）続いて商工費について御説明申  
し上げます。

商工費の補正額百四十九万は人件費でございします。  
観光費の中で賃金四万八千円を更正して旅費にお願いい  
たわけでありましたが、来年度の三月末までに必要と思はれる

旅費がこれだけどうしても不足—そうだということでお願います  
るわけでございます。

・土木課長(飯田治男君)ハ款々土木費について御説明申し上げ  
ます。

二項道路橋梁費 二目道路維持費より十六節原材料  
費 三百万についてでございますが、おもに道路の補修用  
の材料でございます。それで不足を生じましたので、今回三  
百万の補正をお願いいたしました。

次り五項都市計画費の公園費七百万の追加でございます  
すが、十一節六百万、これは光熱水費でございます。  
これは城山公園の水道料とくじや公園の電気代でございます。  
次り十二節役務費で一百万、通信運搬費六千円、これは  
十月から城山くじや公園に電話が引かれまして、その電  
話賃でございます。

次う火災保険料 四千円、これは城山イくじく園の管理事務所と鳥舎う火災保険料でございます。

消防本部次長（岩田実君）消防費につきまゝて御説明申し上げます。

六万九千円、補正をいた次第でございます。

一目う常備消防費といたしましては三万四千円でございます。まゝて、これは御承知のとおり南部簡易水道が完成いたしまして、そう給水区域内に富崎分遣所がございます。まゝて、これに対する流末工事負担金でございます。

二目う非常備消防費といたしまして、三万五千円報償費でございますが、これは十五年以上勤務いたしました消防団員が退職さしまして、これに対する条例に基づいて退職報償費でございます。

これは基金より歳入されておるものでございます。



三目、消防施設設費でございますが、これは賤源補正  
でございます。当初本年購入いたしました船形、一分団  
一部の消防車に対する果費補助を二十万円見込んだ  
のでございますが、これが二十六万円に追加されたものでござ  
います。従いまして一般賤源が六万円、減に相なった  
わけでございます。

教育委員会庶務課長（干場伊右エ門君）教育費について御談  
明申し上げます。

まず二目の事務局費でございますが、六万三千円、更正で  
ございます。

旅費で二万五千円、追加でございますが、これは北条小学校  
の改築に伴う設計とか、国庫補助、そういう関係のも  
ので旅費が不足いたしますので、お願いした次第でござい  
まして、八節の報償費に二万、原材料費五千円をこの賤

源にいたわけてございます。

次の十八の備品購入費で六万三千元の更正をしてございますが、これは小学校費の方に出て参ります。畑小学校の視聴覚の教材購入費九万三千元ございますが、今回畑小学校の視聴覚教材設備補助といたしまして、三万円の県費補助があるわけでございまして、その三万円とこの六万三千元を加えまして、畑小学校分としまして視聴覚関係の器材を購入するわけでございまして、それを資料センターに一応置きまして、これを使用するというものでございます。次は小学校費の関係で百六万一千円の増でございまして、まず職員手当の宿日直手当五万三千元、それから賃金で四十五万四千円、合計五十九万七千元、それに中学校費で宿日直の手当二万三千元、それから賃金二十三万二千円あるのでございますが、この関係のうち、十月一日から小中

学校の教員が土曜・日曜・宿日直を行なわないう  
ことになりまして、代行員を頼んで、そうして宿日直を  
行なわせるというものでございます。果からは三百四十円  
の補助があります。

結局市からは百七十円を出して合計五百十円というこ  
とになるわけでございまして、その関係もございまして。

それから、次の需用費で十四万二千円、これは光熱水費関  
係、水道費の一部、値上げ、それから給食学校、水道  
費関係の不足、そういうもので十四万二千円を追加するわ  
けでございまして。

それから、備品購入費で十四万七千円というのは、これを更正  
しまして、これに充てるわけでございます。

役務費、三万二千円は、電話料が不足いたしますので、  
お願いいた次第でございまして。

二 負 担 部 門  
それから工事請負費が三万五千円、これは九重小学校の古い校舎、今度取りこわしたわけでございますが、それに配電盤とか、そういう関係のものがついておいて、それを新しい方に移すために三万五千円でございます。

それから十九節、十九万八千円、これは南部簡水の流れ末工事でございますが、神余小学校のプール、それから神戸小学校、神余小学校、富崎小学校、それからこの水道を引くことになりましたので、その関係の負担金でございます。これは十九万八千円でございます。

次に教育振興費関係で十九万八千円の追加でございますが、これは消耗品費で十三万六千円、備品のうち二千円以下のもものは消耗品から出すということで、消耗品に十三万六千円をお願いしたわけでございます。

それから使用料、賃借料、五万五千円、これは中学校の

方にも七万二千円あるわけでございますが、これはTBS関係の音楽コンクール、会場、バス借り上げ料でございます。今回小学校の方は北条小学校、館山小中学校の方は、一中と二中、それぞれ関東甲信越関係の会場がきまりまして、東京にいくわけでございます。そのバスを借り上げ料をそれぞれお願いした次第でございます。

次は備品購入費、六万七千円の更正でございますが、ここに理科教育設備の関係が十六万更正でございますが、これは当初予定した理科教育設備関係より東小学校、豊房小学校、館野小学校を見たうえでございしますが、そのうち豊房小学校が補助関係がだめになりまして、そこで、その分の補正をしております。

それから次の扶助費、七万四千円、これは準要保護関係のそれぞれ学用品、修学旅行、これは四万六千円、四万円

、追加ですが、単価が高くなつてきたために、その増額分でございます。

それから、通学・医療、それ、それ、一万円、一万九千円、補正でございますが、これは該当人員の減少ということでございます。

給食関係、一万七千円、これは給食人員の増加に伴うものでございます。

次に中学校費で五十七万七千円、増でございますが、宿日直関係は省略させていただきます。

需用費、八万五千円、増、これは二中の公開研究会のため、印刷製本費に十三万五千円、関係で八万五千円をお願いしたわけでございます。

それから、役務費の五万四千円、これは学校の電話料でございます。

それから、学校器具費十六万二千円を補正いたしまして、財源にいたわけでございます。

それから次に教育振興費、使用料及び賃借料、七万二千円、これは省略させていただきます。

扶助費、これも単価の増額、人員の減少、そういう関係で十七万九千円を追加でございます。

次に高等学校費でございますが、負担金補助で八万円でございすが、このうち館山高校の定時制教育の振興会補助五万円でございすが、これは今回働きながら学ぶ生徒の修学費を上げるといふことで、地域社会と密接な関係をはかるというところで、定時制教育の振興、発展を目的として、館山高校の定時制教育振興会というものが今回できたわけでございします。

会長に館山市長さん、副会長が町村会会長、商工会議所

会頭が就任したわけでごまいて、こゝ会費助成金と  
まいて、館山市が五万、それから近隣町村が五万円負担を  
お願いしたいというわけでごまいて、こゝに五万円を計上し  
たわけでごまいます。

次々日比親善高校野球大会の補助金でごまいますが、こ  
れはフリーピン野球協会から、日比西国親善をはかるた  
めに日本代表の高校チームを正式に招聘したいという正  
式の申し入れがあつて、こゝに對して日本高等学校野球  
連盟の指名によつて本県で選抜チームが本年十二月  
下旬から、明年一月上旬まで、半月冬期休暇を利用  
して、フリーピンの遠征を行なう。

こゝは、その日本高等学校野球連盟から補助金  
五十万円、経費が概算四百万かかる。会費調達に御  
協力願いたいということ、それから各市出ておるわけ



ございます。当市は三万円をお願いしたいというものでござ  
います。

館山市からは安房高二年、順豊倉隆という生徒が参  
加するようでございます。

次は社会教育費関係で十四万六千円の増でございますが、  
備品購入費が十万円。これは神戸公民館のところにサイレンが  
ついておるわけでございますが、そのサイレンがもう古くな  
り使用不能ということにございますので、これを十万円で購  
入して備え付けたいというものでございます。

それから十九節の負担金補助及び交付金一萬四千円。こ  
れは南部簡水の関係の工事費、神戸公民館に引くもので  
ございます。

それから図書館費にいきまゝ五万四千円を追加でござ  
います。臨時職員関係で三万二千円、光熱水費二万

二千円でございますが、これは現在金融公庫で使っております。関係の光熱水費をここに上げた次第でございます。これは財源としては収入で入って参ります。以上でございます。市民センター館長（太田博雄君）六目市民センター施設費について御説明申し上げます。

本年三月まで賃金といたしまして十七万六千円の不足を生じます。役務費より二十万円を更正いたし、その結果二十四万円減によりましてセンターの施設費は八百九十七万六千円となるわけでございます。よろしくお願いいたします。財政課長（長谷川広治君）引き続き御説明申し上げます。保健体育施設費におきまして今回七百五十万更正いたしまして、これは二六ページにございます。災害復旧費の方に組みかえというところで更正をいたしましたわけでございます。この組みかえの原因は先ほど申し上げましたとおり、災害復

旧負債として二百七十万起債がつくという関係から、このような  
課目から支出をいたすという事になった関係でございす。以上  
含ませまして歳出の御説明を終ります。総額二千八百  
六十五万四千円という事に相なります。

引き続きまして九ページに歳入に入らしていただきます。

市税といたしまして市民税、固定資産税におきまして、そ  
れぞれ六百九十六万二千円、百七十五万円を計上いたしてござい  
ます。これは説明欄にちゅうと算出方式を書いてござい

ます。上欄の最初の数字は現在、調定額でございす。  
市民税で申し上げますと二千七百十六万八千円というものが、  
現在、調定額、それから〇・九八というものが年間、収納  
率と申しますか、税金を取りする率でございす。

それから二欄目、まん中の数字が現在、予算計上額  
でございす。たとえば市民税で申しますと千九百六十六

万三千円というものが現在より予算計上額でございます。

そうして最後に掲げてございます数字が予算より計上できる  
 備範囲の数字ということに相なるわけでございますので、円等  
 は省略してございますがさうに御了承願いたいと思います。  
 従いまして市民税におきましてあるいは固定資産税におきま  
 して現在より調定実績から考えまして、それより額が徴  
 収できるものというように予定をいたしまして、財源の関係から  
 金額計上いたした次第でございます。

四款の国有提供施設関係で二十四万七千円計上いたしてござ  
 います。これは附記に掲げてございますような交付金で  
 ございます。実績が六百七十四万七千円という決定が参りて  
 ありますので、今回金額計上いたしました。

五款の地方交付税におきまして、今回三百六十一万七千円を  
 特別交付税の収入分と予定をいたしまして、計上いたしてござ

います。

地方交付税は総額、こゝをもちまして二億百六十一万七千円ということに相なるわけでございます。

こゝうちすでに決定を見ております。普通交付税の額が一億九千六百八十六万二千円ということに相なりますので、特別交付税分として現在見ております。四百七十五万五千円程度。総額三百六十一万七千円を計上いたしまして、予算計上額といたしましてございます。

大款の交通安全対策特別交付金は、今年度新たにできたものでございすが、総額決定額が百九十九万三千円ということになりまして、差額を追加いたしたわけでございすが、こゝに関連しまして、九十九万五千円に、交通安全におきまして先ほど商工観光課長から申されました交通安全施設整備補助金、こゝが減額ということに相なるわ

けでございす。

九款の国庫支出金におきまして、追加更正がございす。差  
一引き額 三十五万八千円を計上いたしてございす。が、  
この内容につきまゝでは先ほど歳出面で御説明を申し  
上げました事業がそのまま行なわれるとすべし。それに対応  
する金額としてこの程度の収入が見込まれるということでござ  
いす。で、それゆゑ説明欄により御了承をいただき  
たいと思ひます。

十の県支出金におきまして総額千百五十三万六千円。追  
加でございす。が、これも先ほど御説明申し上げました  
歳出に対応する数字でございす。で、それゆゑ附記  
欄により御了承をいただきたいと思います。

一二ページ中段に諸収入として計上をいたしたものがご  
ざいす。が、このうち弁償金として三十八万一千円。これは

事務的に申し上げまして、二うう収入でございまして、それぞれ金額を計上いたしました。

二う生活保護費の負担分として、過年度分当初予算に見まゐた以外に現在決定をいたしました額から考えますと、二十万二千円増額ということに相なると思われますので、差額を計上いたしてございます。

雑入といたしましては、四十万九千円でございますが、これは消防関係、それから先ほど御説明がありました図書館の電気料の関係の国民金融公庫の分担金と申しますか、実費徴収分でございます。

予防接種の報償金として今回はじめて二十五万九千円が交付になりましたので、これは例年はないということでございますが、今年度分として雑入として計上いたしてございます。

十五款の市債は決定と申しますか、内定をしておりますので、

二百七十万計上してございます。以上歳入も含めまして二千八百六十五万四千円ということになりまして歳入歳出差し引き残金なしということになります。

なお債務負担行為につきましては先ほど申し上げましたとおり総額分債総額のうち起債等が予定いたってございますので簡単に御説明を申し上げます。

二九ページでございますが補正調書として細かく計上いたってございますが、北条小学校等用地購入費この「等」には先ほど申しましたとおり幼稚園も含めてございますので「等」という文字を使用しております。

二カ年度におきまして現在より原価計算の結果八千四百六十九万八千円ということではございまして、それを限度額におさえましてそれぞれ四十四・四十五カ年度にわたって分債をするという契約をいたしたいというわけではございます。



このうち、四十四年度には、地方債として二千八百万程度、四十五年度には、三千五百万程度を予定をいたしてございます。

含ませて起債総額が六千三百万でございます。

従つて一般財源として使用いたします額が二千百六十六万八千円ということになります。

その内訳は、それぞれお示をいたしてございまして、ごらんいただきたいと思います。なお、北条小学校の用地購入を二カ年度に分けましたのは、建築関係も二カ年度にいたしますので、それを一時にいたしますと、起債関係でつかない場合もございますので、そういう諸情勢と申しますか、事務的な技術的な面を考えまして、それぞれ二カ年度にわたつて支払いをいたしたいという予定でございまして。

以上で一般会計の補正予算、四号の説明を終わらせていただきます。

・副議長（西村真次君）暫時休憩いたします。

午後 三時五分 休憩

午後 三時五十分 再開

・副議長（西村真次君）休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き説明を求めます。

・保健衛生課長（綱島憲治君）議案第八十六号について御説明申上げます。

今回、補正におきまして歳入歳出それぞれ二十二万六千円を追加いたしまして総額歳入歳出二億七千七百三十七万九千円といたしたいわけでございます。

特別会計、ページをお開きいただきたいと思います。

事業勘定におきまして一般管理費におきまして

旅費の六千円を追加でございますが、本年度不足見込みでございます。

次の保健施設費におきまして七万二千円の追加でございますが、このうち旅費四万五千円は果が主催いたします保健婦の研修的な旅費。それから次の備品購入費二万一千円はこれまた果が補助を流しまして保健婦の被服を支給しようというものであります。

次の負担金六千円は最初に旅費で申し上げました研修の負担金六千円でございます。

次の諸支出金のうち還付金二万円。これは保険税還付金。これは更正決定等がございます。た還付金でございます。次に直営施設勘定におきまして報償費五万八千円。これは手術等を行ないます。場合に応援の医師を頼むわけでございますが、そういった謝礼金でございます。



議案第八十七号に於て御説明申し上げます。

簡易水道事業特別会計の今回、補正におきまして、今回は歳入歳出予算の総額には変動はございません。歳入歳出予算の款項の区分ごとの金額の補正だけをしたというとするもつてございます。

一三ページにそれぞれ補正の表がございしますが、この内容でございしますが、一四ページに歳出の明細がございします。今回総務管理費におきまして十八万四千円でございします。これは職員手当でございまして、先刻人事課長の説明にもございましており、これは期末手当・時間外手当の内容でございします。

これを十八万四千円予算費を更正してこの財源に充てたいというもつてございます。

商工観光課長(山田俊康君) 議案第八十八号休養施設特別

会計について御説明申し上げます。

一五ページ今回お願いいたしますのは、歳出予算の補正でございす。

歳出予算予備費二十七万のうち三万二千円を経営費に補正していきたいというものであります。

一八ページ経営費の中で職員手当七十五万円を減額いたしまして賃金に六十七万五千円、報償費に二万七千円

備品購入に八万をお願いするわけでありますけれども、職員

手当り更正、これは鳩山荘の応接員、女子職員でありますけれども、

女子職員が当初計画ではそのままずっと

勤めていただけるものと、時間外勤務手当を計上し

ておたうであります。途中でやめる職員が非常に多

くなりまして、新たな職員を採用いたしますと、六ヶ月間

は臨時職員として条件付で採用しております。

そういう関係で賃金で六十七万五千円、十二月一月、

二月三月と今後、臨時、応接員、雇い上げ料に充當  
—たいと考えております。

なお、報償費のうち、従業員奉仕精励金、一万二千円、も臨時職員にかかります。精励金であります。

講師等、謝礼、一万五千円、これは鳩山荘でお花とか洋裁とか、いろいろ女子職員の厚生業務をやっております。けれども、そのとき、講師の謝礼として、三月まで、不足額をお願いしようというものであります。

備品購入費、八万、円は冬になりまして、五年ほど前に購入いたしました。こたつが、だいたい、たみまして、買いかえなければいけない時期になりました。これを、お願いしようというものであります。

歳出、関係で、予備費、三万二千円を、経費費に持ってきて、なお、職員手当、七十五万を、更正いたしました。これは

らう七十八万二千円、財源に充てたわけであります。

続きまして議案第八十九号ユースホステル会計について御説明申し上げます。

ユースホステル会計におきましては、歳入歳出それぞれ五十八万九千円を追加いたしまして、総額を六百三十五万三千円にしたいと考えております。

特別会計の二五ページをお開き願いたいと思います。

経営費におきまして五十八万九千円、需用費で七十三万四千円をお願いしたい。

印刷製本費が三十万であります。これはユースホステルにおきまして、絵葉書など相当購入希望者等もございます。

絵葉書を市で観光絵葉書を刷りまして売りさばきたいというふうであります。

修繕料につきましては現在、厨房の一部とそれから各



室う戸関リとか、すきま風が相当入ります。そこを一部修繕したい。

それから備品購入費で十五万減額になっておりますのは、当初計画でガロスター新品を購入しようという計画をいたしましたけれども鳩山荘で使っておりましてガロスターを大修繕すれば何とか間に合うということとで修繕した結果、浮いた金額を更正しようということとあります。それから冷蔵庫の購入費、入札によつて浮いたものを五万更正しようというものであります。

歳入の方は一ページの方にあります。繰り越し金う五十八万九千円を今回お願いして全部で百二十四万う繰り越し金がありましてそれを今回お願いして総額で六百三十五万三千円となるように補正をお願いした次第であります。

副議長（西村真次君）本日の会議はこれにて延会いたします。

ます。

次会は明十九日を議案審査のため休会とし十二月二十日午前十時開会といたします。

その議事は本日に引き続き、各議案の審議並びに通告質問といたします。

午後四時十分

建会

本日、会議に付した事件

一 開会

一 議長報告（出席説明者）

一 会議録署名議員の決定

一 会期、決定

一 市長議案提案説明

一議案第八十号

一認定第一号乃至第七号 報告第五号 議案第七十八号、七十九号  
及公議案第八十号乃至八十九号

出席議員

石井輝久

嶋田石蔵

伊賀多朗

藤田益治

磯辺博

白熊盛太郎

黒川正

三幣勇

西村真次

菊井敏博

小柴孝

山田教子

遠山ヨネ子

石井正

五十嵐昇

安西益男

島野茂樹郎

中村省吾

小澤惠太郎

飯田義男

田村源治郎

秋山六三郎

安沢徳順

望月照正

鈴木市蔵

山口康

大席議員

吉田勇治郎

江田徳太郎

関武夫

田中祿郎

